

一般社団法人日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 33 回 リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) 議事録

1. 日時 2015 年 11 月 19 日 (木) 13 : 30～15 : 40

2. 場所 原燃輸送 (株) 大会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)

(委員) 小田野、清水 (2 名)

(委員候補) 木倉, 白井, 松本(務), 水谷, 大岩, 澤, 佐伯, 影山 (8 名)

(代理委員候補) 松本(光) (長田代理) (1 名)

(欠席委員) 小佐古 (1 名)

(欠席委員候補) 入江, 松岡, 須山 (3 名)

(常時参加者) 石川, 吉村 (2 名)

(常時参加者候補) 下条, 樋口, 蓬田, 中林, 菱田, 広瀬, 本田 (7 名)

(欠席常時参加者候補) 野島, 大野, 堂守 (3 名)

(オブザーバ) 三枝 (1 名)

(事務局) 谷井

4. 配付資料

F4SC33-1 人事について

F4SC33-2 第 32 回リサイクル燃料貯蔵分科会議事録(案)

F4SC33-3 標準委員会活動状況

F4SC33-4 原子燃料サイクル専門部会活動状況

F4SC33-5 「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準 : 2010 (AESJ-SC-F002:2010)」改定について

(添付-1) FTC63-4 原子燃料サイクル専門部標準策定スケジュール (案)

(添付-2) 2015/10/01 JSME HP お知らせ : 使用済燃料貯蔵施設規格 金属キャスク構造規格 (2007 年版) 添付 3-3, 解説添付 3-3、解説添付 3-3 の削除及び事例規格 (JSME S FA-CC-001, 002, 003, 005, 008, 009, 010) の廃止について

(添付-3) 金属キャスク関連 学会規格・標準対応の動向

(添付 4) 日本原子力学会標準 使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準 : 2010 (AESJ-SC-F002:2010) の JSME 規格引用箇所の抽出

(添付-5) リサイクル燃料貯蔵分科会 開催スケジュール(案)

F4SC33-6 「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準:2010」
改定要否検討結果 (案)

F4SC33-7 「使用済燃料中間貯蔵施設用コンクリートキャスク及びキャニスタ詰替装
置の安全設計及び検査基準:2007」改定要否検討結果 (案)

参考資料

F4SC33-参考 1 リサイクル燃料貯蔵分科会委員一覧

5. 議事

事務局より、開始時、3名の委員中2名の出席があり、決議に必要な委員数を満足している旨の報告があった。

(1) 人事について

- 委員、常時参加者の退任/登録解除及び新しい委員、常時参加者の紹介、並びに委員の選任決議及び常時参加者登録の承認が行われた。
- 主査の投票が行われ小田野委員が選出。その他木倉委員が副主査、白井委員が幹事として指名され、更にサイクル専門部会への代表者に白井委員とすることが決議された。

(2) 前回議事録確認

- 前回議事録案については、参加者の誤記を修正することで、承認された。

(3) 標準委員会活動報告

- 事務局より、標準委員会の活動内容が報告された。

(4) 原子燃料サイクル専門部会の活動状況について

- 事務局より、原子燃料サイクルの活動状況が報告された。

(5) 標準改定案の検討

- 幹事会より、本標準の改定に関する方針、対応スケジュールが提案された。
- 議論の結果、国内外の最新知見を反映することとし、改定すべき内容について中長期的課題と短期的課題について分け、改定を進めることとした。
- 標準作成においては、新たに作業会を設置することとし、幹事会にて具体的な検討内容、作業会の体制について検討し、次回分科会で提案することとした。
- 議論における主なコメントは、以下の通り。
 - ・ 単に他学会の改定状況を反映するのではなく、当学会の主体性をもって改定

していくことが重要。

- ・ IAEA 輸送規則の検討において、輸送・貯蔵兼用キャスクについても要件を規則に取り込むこととしており、このような国際的な動きも反映すべき。また、最新の知見を盛り込むことを考えると 5 年毎の改定で良いかも検討すべきではないか。
- ・ 中間貯蔵施設の許認可実績により、見直すべき点があれば反映すべき。
- ・ 新たに型式証明、型式指定で申請する仕組みができたことも新知見のひとつ。
- ・ 新知見の取り組みに関し、中長期的に対応すべき事項と短期的に対応すべき事項に分け標準改定を行うべきではないか。
- ・ 他の分科会では作業会を設置し、審議する標準の案を作成している。当分科会でもそうすべきではないか。
- ・ 当学会標準委員会には、「標準活動基本戦略タスク」ができ、標準活動に関し、今後どうすべきか検討している。この動きも参考にすべき。

(6) 標準改定の要否（専門部会報告案）の検討

- 幹事会より、12月1日に専門部会に報告する標準改定の要否案について提案された。
- 前項の審議同様、単に他学会の改定状況を反映するのではなく、当学会の主体性をもって改定する趣旨に修文することとした。

(7) 今後のスケジュール

- 次回分科会は 2016 年 1 月 26 日（火）13:30 から原燃輸送で行うこととした。

以上